

地方の企業経営・あやべスタイル

日東精工

材木社長が経営理念など紹介

上場企業と半農半Xの共存

日東精工(株)(京都府綾部市。材木正巳社長)は12月12日、東京・丸の内野村総合研究所会議室



講演会会場のようす



講師の材木社長

にて『地方の企業経営「京都・あやべスタイル」〜上場企業と「半農半X」が共存する魅力』をテーマに講演会(主催「日本リアルオペション学会」)を行った。材木社長が講師となり、東京証券取引所第一部上場を果たしているグローバル企業の同社が、人口

国内・海外に製造拠点・ネットワークを持ち、「お客様満足度120%の実践」を目指し、ねじから締結機、検査まで行うトータルソリューションを提供している。当日は、材木社長が資料を用いながら地方における企業経営の考え方や自社の経営方針などについて詳細に説明した。

はじめに本社所在地の綾部市について概要を説明。人口3万5千人に満たない小さな町であるが、同社の取り組みも掲載されている。講演会タイトルと同名の書籍(蒲田正樹氏著、扶桑社出版)で綾部市は地方創生の基となる人づくり、街づくり、ビジネスヒントが詰まっていると述べた。

引を行い、若手技術者育成のための研修所設置などの協力もしている。これらの取り組みが認められ、地域内では取引関係の中心となり、他地域との取引を繋げている「コネクターハブ企業」に認定されている。次いで経営方針についての説明へと移る。同社の経営戦略は「お客様満足度120%」、「絆経営」、「従業員満足度向上」、「種まき経営」を柱としている。顧客の満足度を満たすことが、ひいては従業員満足度につながり、最終的には企業の利益向上につながると語った。

まためでは、同社が綾部市に拠点を置き続けるのはCSR(地域貢献)を実現するためであり「半農半X」のXとは「やりたいこと」、「やりたかったこと」であると説明。「良い仕事をすることは良い人財を育てることが大切である」と述べ、人材教育にも注力している点を紹介した。

続いて、同社の企業運営における基本方針「地域振興」について具体的に紹介。地域経済の活性化に貢献するため、地域内の企業と可能な限り取